

CASBEE-広島 (2010年ver.1)
(仮称)イズミ新本社

用途等で評価が不要となる項目については、自動的に網掛けが入ります
 欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE広島 2009年版
 ■ベース評価ソフト: CASBEE-NCb_2008(v.3.2)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								3.3
Q1 室内環境			0.38					3.4
1 音環境		3.4	0.15					3.4
1.1 騒音		3.0	0.44					
1 暗騒音レベル		3.0	1.00					
2 騒音発生対策			-					
1.2 遮音		4.2	0.35					
1 開口部遮音性能	T-2等級以上を採用	5.0	0.60					
2 界壁遮音性能		3.0	0.40					
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			-					
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			-					
1.3 吸音		3.0	0.21					
2 温熱環境		3.5	0.35					3.5
2.1 室温制御		3.2	0.50					
1 室温設定		3.0	0.39					
2 室内空気環境制御			-					
3 外皮性能	窓システムSC:0.36、U:2.5(W/m ² K)、外壁U=0.9(W/m ² K)	4.0	0.24					
4 ゾーン別制御性		3.0	0.37					
2.2 湿度制御			-					
2.3 空調方式	床温度センサー付のエアコンを採用し、上下温度分布に配慮	5.0	0.30					
3 光・視環境		3.0	0.25					3.0
3.1 昼光利用		2.4	0.33					
1 昼光率		1.0	0.52					
2 方位別開口			-					
3 昼光利用設備	トップライトを利用した昼光設備	4.0	0.48					
3.2 グレア対策		3.0	0.26					
1 グレア発生防止			-					
2 昼光制御		3.0	1.00					
3.3 照度		3.0	0.13					
1 照度		3.0	1.00					
2 昼間の自然光			-					
3.4 照明制御	事務所:人感センサーによる制御	4.0	0.28					
4 空気質環境		3.8	0.25					3.8
4.1 発生源対策		4.0	0.50					
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆をほぼ全面に使用	4.0	1.00					
2 化学汚染物質			-					
3 化学汚染物質			-					
4.2 換気		3.7	0.30					
1 換気量		3.0	0.35					
2 自然換気性能		3.0	0.29					
3 取り入れ外気への配慮	外気取入れ口を汚染源と方位を変え、かつ離隔距離を確保	5.0	0.35					
4.3 運用管理		3.5	0.20					
1 CO ₂ の監視	CO ₂ 監視による導入外気量の制御を採用	4.0	0.50					
2 喫煙の制御		3.0	0.50					
Q2 サービス性能		-	0.30					3.3
1 機能性		3.0	0.40					3.0
1.1 機能性・使いやすさ		2.4	0.44					
1 広さ・収納性		1.0	0.29					
2 高度情報通信設備対応		3.0	0.29					
3 バリアフリー計画		3.0	0.42					
1.2 心理性・快適性		4.0	0.32					
1 広さ感・景観	事務所:天井高3.0m、物販:天井高3.95m	4.0	0.33					
2 リフレッシュスペース	喫煙コーナー、リフレッシュスペース、自販機設置	4.0	0.33					
3 内装計画	執務室の天井高3m、執務室のほぼ全域に窓を確保	4.0	0.33					
1.3 維持管理		3.0	0.24					
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50					
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50					
2 耐用性・信頼性		3.3	0.31					3.3
2.1 耐震・免震		3.0	0.48					
1 耐震性		3.0	0.80					
2 免震・制振性能		3.0	0.20					
2.2 部品・部材の耐用年数		3.3	0.33					
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.23					
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.23					
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.09					
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	厨房排気ダクト:SUS、屋外露出ダクト:ガルバリウム鋼板	4.0	0.08					
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	主要な用途上位3種にB以上を使用し、Eは不使用。	5.0	0.15					
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.23					

2.4 信頼性			4.0	0.19		-	
1	空調・換気設備	災害時において重要度の高いシステムを優先的に運転、デマンド制御採用	4.1	0.20		-	
2	給排水・衛生設備	節水型器具採用、中水利用	4.1	0.20		-	
3	電気設備	非常用電源、無停電電源を採用	5.0	0.20		-	
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20		-	
5	通信・情報設備	通信手段の多様化、精密機器の地下空間への設置を避けている	4.0	0.20		-	
3 対応性・更新性			3.6	0.29		-	3.6
3.1 空間のゆとり			4.6	0.31		-	
1	階高のゆとり	階高 事務所:4.3m、物販:5.6m、駐車場:4.1m	5.0	0.60		-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率 事務所0.3以下、物販・駐車場0.1以下	4.0	0.40		-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31		-	
3.3 設備の更新性			3.3	0.38		-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.17		-	
2	給排水管の更新性	構造部材を痛めることなく、修繕・更新可能	4.0	0.17		-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.11		-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.11		-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.22		-	
6	バックアップスペース	設備置場に将来用スペースを確保	4.0	0.22		-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.32		-	3.1
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30		-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		広島市景観形成基本計画における重点的景観形成地区の取組方針を満足する計画	4.0	0.40		-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30		-	3.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50		-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-		-	4.0
LR1 エネルギー			-	0.40		-	4.2
1 建物の熱負荷抑制		PAL低減率 事務所:21%、物販7.5%	3.8	0.24		-	3.8
2 自然エネルギー利用			3.5	0.22		-	3.5
2.1	自然エネルギーの直接利用		3.0	0.50		-	
2.2	自然エネルギーの変換利用	太陽光発電	4.0	0.50		-	
3 設備システムの高効率化		ERR=43.1	5.0	0.33		-	5.0
4 効率的運用			4.5	0.22		-	4.5
4.1	モニタリング	BEMS採用	5.0	0.50		-	
4.2	運用管理体制	BEMSを活用した運用管理	4.0	0.50		-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30		-	3.8
1 水資源保護			4.2	0.15		-	4.2
1.1	節水	節水コマ・節水型便器・擬音装置採用	4.0	0.40		-	
1.2	雨水利用・雑排水再利用		4.3	0.60		-	
1	雨水利用システム導入の有無	雨水利用率 約30%	5.0	0.67		-	
2	雑排水再利用システム導入の有無		3.0	0.33		-	
2 非再生性資源の使用量削減			4.0	0.63		-	4.0
2.1	材料使用量の削減		3.0	0.07		-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24		-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	高炉セメント(基礎梁、基礎)	4.0	0.20		-	
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	再生加熱アスファルト混合物(車路)、再生骨材の路盤材利用、陶磁器タイル(床タイル)	5.0	0.20		-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.05		-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	躯体と仕上材分別可能、内装材と設備が錯綜しない	5.0	0.24		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.22		-	3.0
3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.32		-	
3.2	フロン・ハロンの回避		3.0	0.68		-	
1	消火剤	不活性ガス消火採用	4.0	0.33		-	
2	断熱材		2.0	0.33		-	
3	冷媒		3.0	0.33		-	
LR3 敷地外環境			-	0.30		-	3.9
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率 66%	5.0	0.33		-	5.0
2 地域環境への配慮			3.6	0.33		-	3.6
2.1	大気汚染防止	燃焼機器を使用しない	5.0	0.25		-	
2.2	温熱環境悪化の改善		3.0	0.50		-	
2.3	地域インフラへの負荷抑制		3.7	0.25		-	
1	雨水排水負荷低減	雨水流出抑制対策を実施	4.0	0.25		-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25		-	
3	交通負荷抑制	駐車場・駐輪場・荷捌きスペースの確保、駐車場出入り口の配慮	5.0	0.25		-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25		-	
3 周辺環境への配慮			3.1	0.33		-	3.1
3.1	騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40		-	
1	騒音		3.0	0.33		-	
2	振動		3.0	0.33		-	
3	悪臭		3.0	0.33		-	
3.2	風害、日照阻害の抑制		3.0	0.40		-	
1	風害の抑制		3.0	0.70		-	
2	日照阻害の抑制		3.0	0.30		-	
3.3	光害の抑制		3.7	0.20		-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	「光害対策ガイドライン」のチェックリスト項目の過半を満たす	4.0	0.70		-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30		-	